

第8回白石町学校統合再編審議会会議録（要約）

日 時: 令和元年11月20日(水)19:00~20:35

場 所: 白石町役場 3階大会議室

出席者

◆審議会委員21名

◆事務局

◆企画財政課職員

進行: 学校教育課長

1 開会

進 行: 皆さん、こんばんは。定刻となりました。22人の委員の内、只今の出席は21人でございます。1人欠席の連絡がっております。それでは、「第8回白石町学校統合再編審議会」を開催させていただきます。

では、お手元の「審議会次第」により進行させていただきます。

2 会長挨拶

進 行: 松尾会長にご挨拶をいただきます。

会 長: 皆さん、こんばんは。昼のお仕事の後にこうして集まっていただきまして、大変ありがとうございます。若干喉が潰れておりまして、悪声になりますが、よろしく願います。皆さん方の本当に熱心な討議のおかげで、議論も進んで参りました。これからいよいよ、坂の頂上目指して、あと何合目か行けば結論が出るのではないかというふうに思います。今晚も、皆さま方、ひとつ活発な意見をよろしく願います。今日は本当にありがとうございました。

進 行: ありがとうございます。

3 前回会議録の確認

進 行: 前回会議録をお配りしていたが、何か誤りや不適切なところはなかったか。
(特になし)

進 行: それでは、これで公開とさせていただきます。

4 議事

進 行: それでは、次第4、議事となるが、ここからの進行については、松尾会長に願います。

(1)事務局より資料説明【資料51～資料52】

議 長: それでは、わたくしが議事を進めて参りたいと思う。ご協力よろしく願います。(1)事務局より資料説明をお願いする。

(資料51～52について、事務局から説明)

議 長: ありがとうございます。只今、資料に基づいて説明があったが、これについて何かご質問があるか。

委 員 A: 今回の資料で、町の中心部付近に用地買収し、新築の校舎を建設ということになると、話が随分変わってくるなというふうに印象を持ったところである。今まで財政的な面を考え、できるだけ既存の施設を利用するというので、審議をしてきたような気がする。この用地買収と新築について、町の財政関係の見通しについて、町長もそのことに承認されての提案であるのか、それとも現時点で可能であると予測のものであるのか、そのあたりの説明をいただければと思う。

議 長: そのあたり、事務局説明をお願いする。

事 務 局: 言われたように、考え方、素案では既存の施設を極力利用して考えるということにしていた。しかしながら、事務局の方でもいろいろ協議してきた中で、当時、将来的な学校再編を見据えたかたちという考えがなかった。また、財政的なことも考えておらず、考え方、素案については、当時の考えとは変わったものになっているのは確かである。それについては、大変申し訳なかったと思っている。ただ、将来を見据えた場合に、新築校舎を2校、3校建てるというのは、財政上厳しい。将来を見据えた位置に新築するのであれば、1校建設は考えられるか？ということで、町長部局の方にもお話をさせていただいたところである。町長部局の方も、学校統合再編は子どもたちのためであるので、極力答申が決まり、新築する計画になれば、それで話を進めて行きたいということでお話いただいている。

議 長: 今までは、どちらかと言うとこの審議会では財政的な面は遠慮しながら議論をしてきたと思う。だから、古い校舎でも使わないといけないだろうというようなことで、3校案が出ていた。将来的には、段階を踏んで1校というような意見もかなりあったと思うが、これからの学校というのは、ただ単に今ある学校を補修して利用するのではなく、ノーマライゼーションということで、段差の解消とか、階を設ければエレベーターを付けたとか、そういった校舎の作り方に変わって行かなければならないと思っている。それで、今ある学校を改修するにしても、そうした視点が要るのではないかと思う。今、将来を見据えてというような話があったが、おそらくそういったことではないのかなと思っている。これから先は、

ますます学校施設も、誰でも手軽に混乱なく利用できる施設にしていかなければならないということで、私自身も町の財政に遠慮していたが、新しい場所に新しい校舎を作っていくというもひとつの考えかなと思うところである。皆さま方、何か意見がないか。今日は、財政の話から出ているが。

委員 B: そうすると、例えば中学校の位置も変えていい、そういう話なのか。中学校も含めて新築できるお金が白石町にはあるということになるのか。そもそもの話が少し動いているような気がするので確認する。

事務局: 今お示しをしているのは、委員皆さんの意見を聞いて、A パターンから E パターンに集約されるのではないかとということである。それとは全く違うところに建設するという考え自体は、皆さんからも出て来てはいないのではないかなと思う。

委員 B: そもそも既存はできるだけ活かすという考え方だったので、白石中学校を利用した方が良いのではないかとということではなかったかと思うが。

事務局: 今までは、先ほど委員さんがおっしゃったような話で進めていただいたが、前回、将来を見据えた、ということと、小学校の新築も可能か、とのお話が出たので、事務局で、財政の方にそれが可能かどうかと相談をしたところ、将来を見据えてそういう話があるのであれば可能という答えをいただいた。中学校の件については、申し訳ないが確認はしていない。

議長: よいか?他に何かあればお願いします。

委員 C: 今言われたのは、白石中学校の校舎の話だが、この間中学校の答申案を取りまとめた中では、現在の白石中学校施設を活用することで答申に盛り込んでいる。それが取り決めたところだと思うので、また新築するという話になると、再び中学校の答申に戻ってしまうので、そこは今の校舎を、というところで話をした方がいいのではないかなと思う。

議長: よいか?

委員 B: それはそれでいいと思う。

議長: 一応今のところ、中学校分の答申案は、3校を白石中学校施設にまとめるということにしている。それはまた元に戻って話しても良い、ということはあるが、根本的なところまでは戻りきらないかなと思っている。小学校の話について、何か意見ないか。

委員 D: 大町ひじり学園、玄海みらい学園、多久市立中央校が生徒数500人、900人となっているが、通学の状況などにおいて、児童数200人くらいの学校でやっていたのが、500人とか900人になった場合に、どんなことが起こり得るのかということを知りたいと思う。1校になった時の状況をわかる範囲でお願いします。

議長: 事務局何かわかりますか?通学支援の状況だとか。

事務局:通学支援で言うと、多久市には義務教育学校が3校あるが、多久市の通学支援としては400人、一部ピストン運行をしながら17台のバスを運行しておられる。あと玄海みらい学園も輸送人数はわからないが、かなりの台数を使用し、運行事業費を掛けられている。ひじり学園は、おそらく通学支援はないと思う。

委員 D:私としては今まで3校案を前に出してきたが、前回までのグループ討議の中では将来的には1校という話が結構出ていた。将来的にという言葉についても、いつぐらいが将来的なのかと思っており、5年10年であればすぐに訪れるもの。将来的には1校という考えを持っているのであれば、段階を踏まずに、最初から1校への統合再編という考え方もあるのかなと思う。新築するとなれば新たに財政面での負担も出て来るわけだが、同時に今ある学校にも経費は絶えず掛かってくる。財政面については我々も言っているのか、言っていないのかということで会議でも話が出てきた。こういうかたちがいいという理想だけで考えるのではなく、総合的に考えなければいけないのではとも思っている。

事務局:ありがとうございます。

委員 E:先ほどお話があったが、小学校の現場を見ると、学習環境にしても、生活にしても、生徒指導にしても、適正規模というのはとても大きな意味を持つものだと思う。校内の先生たちには、いろいろな役割があるが、町内の小学校は福富小を除いて、すべて適正規模以下である。それが大きな問題になっているわけである。大きな学校だったら1人につき1つの仕事でいいのを、小さな学校であるが為に2つ、3つしなければならない。働き方改革等も含めて、適正規模というのは非常に大きな意味を持つものだと思う。となると、最初から1校では適正規模を超えてしまう。私としては、子どもたちの為にも適正規模の範囲内で学校づくりをしたいと思う。私も初めは3校案だったが、福富小学校だけ適正規模を外れて少人数になってしまうので、そこを何とか解決していかなければという気持ちは持っている。1校か2校のどちらかに、統合再編していくのだろうが、この少子化の進み具合から行くと、新校建設している間にも児童数が減ってくるということも十分に考えられるので、何年後に1校への統合となるのかわからないが、なんとなく段階を踏んだ再編の方が、子どもの安定した教育には良いのかなという気はしている。

議長:ありがとうございました。

委員 F:わたしは最初から1校ということで主張している。今、適正規模とおっしゃったが、将来的に1校にするというのなら、最初から1校にするか、そうでなかったら、ある程度人口が落ち着くまで待って作るか。1度再編して、またすぐにしますということであれば、そのとき再び労力がある。2校と考えたときに、将来片方が、もう片方に統合されるのかどうか心配。それよりも最初から1校にし

て、学校を新しく作る。そちらの方がかえって子どもたちには良いのではないかと思う。子どもたちは大人数の中で切磋琢磨した方が良いと思う。担任の先生を2人配置するなどの検討をしてでも、1校への再編を考えたいと思う。

議 長:ただ今、1校への再編という意見があった。一方では、適正規模が大事という話もあっている。そのあたりを皆さん方で議論していただければと思う。1校と考えると、今のところは適正規模をオーバーするというかたちになる。適正規模を重視して考えるべきか、そのあたり議論していただければと思う。

委 員 G:将来を見据えて1校への再編という案があるが、将来小中一貫とかの考えがあるならば、中学校近くに小学校もあった方がいいと思う。

委 員 F:わたしの案は小学校も中学校も近くに建てて、小中一貫で活性化するというような考えである。ですから、中学校は白石中学校を活用するという答申案が出た中で、小学校も将来的に1校という考えがあるのなら、小中が別の場所にあるより、財政が許せば、小学校と中学校を町の中心付近に建設して、小中一貫を考えていったらどうだろうかという思いでいる。

議 長:今、中学校の答申は一応出来上がっていて、現白石中学校を活用することになっている。それから、小学校は1校にするか、あるいは適正規模を考えて2校にするかというところ。2校にするならば、有明中学校校舎は新しいので、有明中学校に有明3小学校を入れるという話。それから、白石小学校を利用するには老朽化が問題。また、福富小学校に至っては、改修は喫緊の課題というふうになっている状況である。そのあたりで福富と白石を一緒にしてはどうかということになるが、現白石小学校を改修するには厳しいものがあり、そのような改修をするようであれば、新築を考えた方が良いという意見もこれまでの議論の中にあつたような気がする。そういったことを踏まえて、皆さま方に意見を出していただければと思う。

委 員 B:話は戻るが、やはり町として新校建設にいくくらい出せるのかというのは小学校、中学校も含めて、ある程度決めてもらった方がいいのではないかと考えている。もうひとつは、適正規模については避けて通れない議論であり、1校にすると言っても、結局それは適正規模を外れるわけである。前回まで私は1校の考えだった。皆さんの認識の中では12~18学級がいいという考えは変わっていないのではないかなと思う。そのこのところの議論もいるのではないか。

事 務 局:先ほどの財政の話で、現段階での試算として新校建設で30億円程度掛かるということを申ししたが、やはり感覚としては小学校も中学校も両方新築するというのは厳しいかなと思う。年数を空けるとか、いろいろなやり方があればそういうこともあるかと思うが、両方とも一遍に新築というのは難しいと思う。建設すべきだというのなら、しないといけないとは思いますが。白石町の年間の予算

が120億から140億円というところを考えれば、少し大きな負担になるのかなとは思う。

委員 B:あと思ったのは、児童数の予測のところ、子どもの数がきちんとわからない為に、据え置きにして計算しているが、実際はもっと減ることも考えられ、12学級に満たなくなることも十分にあり得ると思う。

事務局:言われるとおり、そういう可能性もちろんある。ただ、先ほど申したように、審議のやり方としては有明については12学級を予想するというで考えていただければと思っている。答申をいただいて、再編計画の策定となるのだが、例えば現有明中学校を利用するようになった場合は、改修等の整備に入っていく流れになるが、開校までにはどうしても数年は掛かる。その段階で、例えば12学級と予想していたが、11学級となったという場合は、それはそれで開校するしかないと思う。ただ、開校時は11学級であったとしても、将来的に1校になるということであれば、例えば有明3小学校が単学級になったとき、また町の中心部に新校舎を建てるということであれば、その新校舎に有明の小学校が入るようになったとき且つ、適正規模を満たすようになったとき、その時が将来的なタイミングではないのかなと思っている。先ほども申したが、有明3小学校の方は適正規模を満たすということで審議をお願いできないかなと思っている。

議長:今、将来的にと考えると、かなり長いスパンになりそうだなという気はしている。ただ、すでに子どもたちの学習環境というのは、少人数が故にいろいろと経験ができないということが出て来ている状況。あまりにも遠い将来を見るのはいかがなものかなという気もしている。そのあたりも含めてご意見をいただければと思う。

委員 A:私の考えを述べたいと思う。最終的には1校が良いと考えるが、現時点この段階の答申については、2校が良いと考える。900人規模の小学校を考えた時に、今は個別の支援が必要な児童がたくさんいて、逞しい児童ばかりではないということも自覚しないとイケない。あまりに大規模になりすぎること、人知れず抵抗を感じる児童が出て来ることも想定される。そういう意味では、Dパターンの2校が望ましいのではないかなと思う。有明中学校については、校舎はまだ十分に活用できるし、すでにエレベーターがある。それと技術室・家庭科室・美術室等を普通学級に編成することも可能で、有明3小学校が1つに集まるときには、改修しても十分に使えるようなもったいない施設なので、その有効活用は必要だと考えている。もし一気に1校にしたら、900人規模が入る大きな学校を建設することになるわけで、その後、児童数が減少すると、空き教室が出て来る。それよりも、とりあえず600人規模の校舎を作って、現有明中学校に入っている有明3小学校の児童数が減ってきたときに、1校に統合する

というかたちでやっていくと、新校舎についても、先を見通したかたちでの建設ができるのではないかと思う。制服ではなく、私服にしておく問題ないし、校歌、校章もそのままにしておいて、有明3小学校の方も一緒にやっていくというかたちにすれば、新校舎も無駄に大きく作らなくてもいいのではないかと思っている。小中一貫校の考えについては、その次のステージかなと思っている。今回新しい校舎の建設が可能ということになったときに、福富地域の子どもたちは、苦労もあると思うが、福富小学校の現状と単学級であることを考えると、白石地域と福富地域を一緒にした方が、福富地域の子どもたちのためにも良いのではないかと思う。それでDパターンが望ましいと考える。

議長：他に何かないか。

委員 C：私も適正規模には、こだわりたい。将来的には1校にならざるを得ない白石町自体も悲しい限りだなと思って、話を聞いていたが、学校が大きくなれば大きくなるだけの弊害もあるのだと思う。だから、文科省あたりが出している適正規模の12学級から18学級というようなところが、存在するのだと思っている。なので、あまりにも1校にして大規模になり、適正規模を超えてしまうというのはどうかと思う。1校になった場合は、小学校からそのまま中学校に持ち上がることになる。今の白石地域の場合は、4つの小学校から1つの中学校に進級する。そういう中で、活性化があったなというふうに思っている。同じ町内に複数の小学校があった方が、競争意識も高まるのではないかと思う。やはり子どもたちのために考えると、通学のことも考えないことはない。いろいろなことを考えると、Dパターンの方がいいのかなと思っている。どうしても児童数が少なくなったというのであれば、将来的にということを見越して1つになるのはあり得る話だと思うので、Dパターンが一番妥当かなと思っている。

議長：他に何かないか。今は1校案と2校案と出ている。

委員 H：私もだいたい意見が似ていると思っている。今人口が5年先、6年先までしか見えていない中、この答申で例えば、「将来的に1校にする」、というような言葉まで書くものなのかということを知りたい。例えば、有明地域がずっと11から12学級で保てた場合でも、白石地域が減ったので白石地域の方と統合して1校にします、というかたちにするのか、それとも2校なら2校でずっといくのか。例えば今はちょっと少ないが、福富地域の人口が今後増えてきたときに、それでも将来的には1校だということに統合するのかという、言葉の選択とか、将来的には1校というのを、「2校」という答申にするのか、それとも「将来的に1校を踏まえた2校」というかたちにするのか、どちらかなという部分が気になったので確認したいなと思った。人口が変わらずに有明地域が11から12学級のままでいった場合に、それでも1校にするというようなかたちなのか、というのをお聞きしたいと思った。

事務局:資料51で、将来的に1校という部分は、前回までのグループ討議や皆さんの意見を聞きながら、たくさん意見が出ていたということで挙げている。もうひとつは、教育委員会の方も配慮が足りなかったことだが、審議の過程でやはり将来のことを見据える必要があるのではないかとということで、こういう図示をしている。ただ、将来的の取り方はそれぞれあるかと思うが、事務局で考えているのは1校になったときも、適正規模というのは大切にしたいということである。すなわち1学年2学級～3学級くらい、全学年で12学級～18学級としているが、例えばDパターンで行くと、有明の方も全学年単学級になった時とか、もうひとつの新学校の方と有明の方と足して、3学級ずつになるくらいの規模になったら統合するというような言い方もできるのかなと思っている。やはり人口が予測できない為に、20年後とか10年後という言い方はできないと考える。適正規模というところを重く見るという考え方から行けば、そういう書き方もできるのではないかと考えている。

委員 H:ありがとうございます。

委員 C:Dパターンがいいということで話したが、実はDパターンの変化形がいいかなと思っている。というのが、Dパターンを見ると282人と603人というようなかたちで、やはり児童数の偏りが出てしまうので、地域自体を変えることも必要ではないかなというふうに思っている。どちらかが適正規模を外れるようなかたちになったときには将来的に1校というところを示した方がいいのではないかなと思っている。ですから、Dパターンの変化形みたいな感じをわたしはイメージしている。

議長:1校案、2校案と話が出ているが、3校案という方はいるか？

委員 I:Dパターンの変化形も案かもしれないが、後に1校へ統合すると考えた時に同じような規模の学校が2校あるよりも、規模に差を付けておいた方がやりやすいような気がする。例えば片方を大きくしておいて、後に1校へ統合することであれば、校歌、制服等そういうものは変えないのもいいのではないか。将来的にという言葉を残すのかということも言われたが、将来的には1校になるということであれば、あえて学校規模に差がある方がいいのかなと思った。同規模校が2つとなると、どちらを残すのかという問題が出て来るかもしれない。将来的にというのが10年ということはないと願うが、20年あたりでは1校に統合ということになるのかなと思っている。

議長:いろいろ議論が出ている。前回までは3校案の意見もあったが、3校案はなくなったというふうに理解していいか？3校案で頑張らないといけないという人がいればお願いをしたい。将来的に1校という話が出て来ていることで、この際一気に1校への統合再編という話もある。今のところ2校案と1校案ということでの議論で、1校案は適正規模について審議がなされているようだが、適

正規模というのは、まさに文字どおりの規模だというふうに思う。そうは言うものの、適正規模にこだわらず1校でいいのではないかというような話があれば、また意見を出していただきたいと思う。

委員 J: 私は最初から1校案の意見だった。学校現場の声をお伺いしたい。先ほど適正規模より少なくなればなるほど1人当たりの先生方の仕事量が多くなって大変だということだったが、逆に大規模校のデメリットというのは何かあるのか。デメリットがあるとすればどういうことが考えられるか教えていただければと思う。

委員 E: 私もそんなに大規模の小学校に勤めたことがないのだが、1学年が4学級、5学級という大規模校は県内にも数校ある。大規模校では保てないということで、例えば鹿島小学校が1,000人を超えたから明倫小学校と分かれ、武雄小学校も1,000人を超えたから御船が丘小学校と分かれてきた。だが、小規模小学校を新たに統合して適正規模を超えるという例は、なかなかないもの。デメリットとしては、校長・教頭・教務主任がいてという学校の組織があるが、大規模校の場合それがフラットである。もちろん学年主任や生徒指導主任がいるが、学校が大きければ大きいほど、組織を運営するピラミッドがなかなか上手いかなくなる。学年でミドルリーダーが引っ張って行けばいいのだが、経験がないことにより、そういう人材もなかなか育っていないというのが現状。2、3学級だったらそのくらいの力量はあるのだが、5、6学級となると、ひとつの学校規模くらいの学級数になるわけで、仕事上も大変になる。また一人の仕事量は減るが、その間、無関心、学校運営には自分は関係ない、自分の学級だけを見据えた先生がいたり、それが問題になったり。今の白石町内の学校は、学校を運営するのにみんな協力的である。そういう面で、やはり大きければ大きいほど、そういう穴と言うか、見落としの部分や学校運営に関わる上での資質が落ちるのではないかなというようなデメリットがあると思う。

委員 J: 逆にメリットは何かあるか。

委員 E: 大きな学校に行った先生たちから聞くと、いろんな児童や保護者がいて、活気があると。それは確かなことだと思う。いろんな価値観の方が集まっている為、いろんなことで盛り上がるのではないか。ただし、クレームやさまざまな違う考えの人との衝突あたりももちろん出て来ると思う。

委員 J: ありがとうございます。

委員 A: 参考になるか分からないが、総勢900人の運動会をしないといけないとなると、盛り上がりはすごいが、出番が少なくなる。マイナス面を考えると、大人数の児童を一斉に動かすとすると指導もなかなか大変で、事故も多くなったりするので、そのあたりの配慮が必要になる。特別支援学級の数も示されているが、今はいろんな特性を持った子どもがいて、個別の支援が必要である。全

校児童900人となると特別支援学級が相当の数になることにも配慮しなければならない。きめ細やかな指導も必要という部分では、適正規模という概念は、そのことも一つ意図としてあるのではないかなと思ったりする。いろんな配慮を要し、声掛けが必要な子どもたちに対応するときに、ある程度の規模の方が、よりきめ細やかな指導支援ができるということが大きなメリットだと思っている。

委員 J:先生方にとって、この会議において、適正規模というのはかなり大きなウエイトを占めているということになるのか。

議長:ありがとうございます。今議論を進めてもらっているが、どうしても1校案でなければならないという意見があればお願いします。今、話を聞いていると、2校案に話が整理されつつあるのかなという気がしているが。今のところ、3校案は出て来なかったが、他に何か意見はないか。

委員 K:話が少し戻ってしまうかもしれない。本日の資料52に多久市の中央校の児童数が900人とあるが、これは小学校と中学校を合わせた数だと思う。昨年度の児童数を調べたら、多久市の中央校は791人だった。県内に義務教育学校、つまり小中一貫校というのは全部で6校あるが、900人を超えるような学校はもうすでにない。先ほど、小学校と中学校を合わせて新しく校舎を建設するというのも考えられるか？という質問があった時に、中学校の方までの建築費というのは考えにくいという答えがあった。小中一貫教育のような連携を取る教育をするということ自体は、別の校舎でもできるのかなと思う。そのことを考えると、白石中学校のすぐ近くに小学校ができるというのは大変魅力的だと思っており、そういう意味では新しく用地を買収して、白石中学校のほど近い場所に小学校を1つ設けるという考えを支持したいと思う。ただ、いきなり1校にまとめた場合のEパターンで考えると、小学校の児童数だけで900人になるというのは非常にひっかかる場所である。去年の人数でいうと、県内に900人以上の小学校は2校しかない。唐津市の鏡山小学校、鳥栖市の弥生が丘小学校であるが、これに近い899人ほぼ900人というのが鍋島小学校。ご存知の方はこういった学校のイメージを持ちながら、この900人という児童数を体感していただければいいかなと思う。また、白石町の町全体の広さと、今挙げたような3校の校区の広さというのも違っており、白石町の方がずいぶん広くなるので、運営的にはバスで通学する子どもが多くなったり、遠距離通学の子どもが出たりという問題が出て来ることを考えると、Eパターンで900人規模の学校を作るということについては、私自身は難を示したいところではある。ただ3校の案が全くなくなることについて、何回目の審議会かは忘れたが、福富地域の方の意見として、地域から小学校も中学校もなくなるということについての意見があり、児童数が200人以上残っている福富小学校は残しましょうというようなお話が出たことがあったので、その件については福富地域の

方々の意見をもう一度聞かなければいけないのではないかなと思う。

議長 長：福富地域の方、何かないか。

委員 L：福富地域のことということだが、前回私は2校案だった。私はずっと福富地域で育ってきているが、福富地域の子どもたちを見ていると保育園、小学校、中学校とずっと一緒である。そうすると、逃げ場がないというのもおかしいが、全くメンバーが変わらないことにより、序列もできてしまって、子どもたちの成長に影響があるのではないかなというふうに思う。それで、私は福富地域も白石地域の方と一緒にの方がいいのではないかなと思っている。その方が、福富地域の子どもたちにとっても、いろんな子どもたちと一緒にすることで、競争もできて、有利になるのではないかなと思う。

議長 長：ありがとうございました。他に何か意見はないか。

委員 D：3校案が消えてなくなりそうである。3校ということに関しては、地域性もあるので、個人としては、気持ちの中にはやはり3校という考えが消えたわけではない。私も3校案の時には、人数合わせではないが、児童数の平均をとっていかうと考えての、福富小学校と北明地区の一部をくっつけての3校案を考えて意見を出したところ。2校にすると有明と白石・福富とは現時点では倍くらい児童数が違うことになる。子どもたちの動きはどうなるか分からないが、有明地域が適正規模から外れるかもしれないという時は、白石・福富の方に統合するということになるのだろうが、有明地域に北明や須古の近いところをくっつけて考えて、将来的に2校で行けるのであれば2校で行けるところまで行ってもいいはず。将来的に1校への統合再編を考えてという考えもあるだろうが、そういうことではなくて、2校で行ってもいいという考え方をするのであれば、校区の再編を考えてもいいのではないかなと思う。

委員 F：粘土細工ではないのだから、そう簡単に何年かしたらこちらの学校にくっけるとかはできないと思う。だから結局は適正規模が大切だと言われるなら、クラス担任を2人ずつつけるとか、技術的なもので解決できないものか。昔は1クラス50人以上いたが、別に問題はなかった訳だし、先生がメリットとして言われた生徒が多くなることにより切磋琢磨できることを大切にしたい。適正規模も大事ではあるが、いつまでも児童数が多い訳ではないのだから。また校舎を作って教室が余ってきたら、例えばその空き教室を災害の時の避難所として利用するような、最初からそういう設計をすとか考えられないか。他市町では廃校になった校舎を避難所として利用したり、災害用に補助で避難所を作ったのはよいが、大変な維持管理が掛かっている。私は、児童数が減ってきた場合は、教室を避難所として有効活用できるように最初から設計をすとかいうようなことで、いいのではないかなと思っている。2校案も尊重はする。

議長 長：ありがとうございました。2校案と1校案で話は進んでいるが、適正規模を

考えると、2校かなという気もする。それで、2校案がCパターンとDパターンがあるが、それぞれについて、事務局の方でメリット、デメリットというのをもう少し詳しく説明していただければと思う。

事務局:教育委員会の方でも委員様方から出された意見を確認しながら、このパターンで協議を重ねてきた。統合再編時の状況だけではなく、将来的に1校への統合再編、または財政的なこと等を考えれば、教育委員会としては、Dパターンの妥当性が高いのではないかと考えている。その理由としては、まず初めに適正規模の件がある。諮問書に、「先行き不透明な次の世代を逞しく生き抜いていく力を育むため、よりよい教育環境を整備する」、としている。また、教育委員会の考え方にも書いているが、小学校の統合再編の必要性としては、単学級では卒業まで固定化した人間関係の中にあり、社会性の獲得に不安が大きい、学校行事などはある程度の規模があった方が望ましい、教育の機会均等、教職員の配置の不安などをあげている。これらを考慮すれば、開校年度では各学年2学級以上3学級以下の適正規模は確保したいと考えているところ。この適正規模でいくとC及びDパターンになる。次に施設面だが、有明中学校の方は何度も出て来ているが、比較的新しい校舎であり、大規模改修工事を行う必要がない。ただ開校時には必要な工事はしなければならない。これはAからDパターン共通。Cパターンは白石4小学校と福富小学校を現白石小学校に入れた場合である。大規模改修の場合、白石小学校は校地面積が広く、比較的改築や増築工事はしやすいと思っている。しかし、大幅に教室が不足する為、増築するとなるとかなりの費用が掛かる。校舎等も比較的老朽化しており、長く使用するとなれば長寿命化の改修工事も必要となる。本体もかなり傷んでいる状態。校地面積は広いが、600人規模の児童と教職員の数を考えた場合、駐車場やスクールバスの場所の確保を考えれば、手狭になるのではないかという可能性も考えられる。Cパターンの新築の場合も同様。次にDパターン。町の中心部に新築すれば、将来的に1校への統合再編がしやすい。また、町の中心部付近を、例えば白石中学校付近と想定した場合、将来的に1校となった場合は、小中一貫校や義務教育学校への移行も考えられる。福富小学校については、老朽化が進んでおり、残して大規模改修をしたとしても校舎等の本体が長年持たないと思われる。Eパターンだが、900人規模の校舎を建てると、このまま人口減少をしていくとすれば、余り教室がかなり出て来るということで、無駄な維持にも繋がるのではないかと考えている。これらを考慮すれば、施設面でもDパターンが妥当ではないかと考える。次に、通学支援について。Dパターンでは通学支援をする区域が増える。想定では230人程度である。しかし、県内外の取組を参考にした場合、通学支援が対応できない人数ではないと思っている。ただ、通学距離が延びるということは、保

護者からすれば、不安が大きい。通学支援、通学路の整備については、今後しっかり計画していかなければならないと思っている。次に財政面。用地を買収して1校を新築するのは、初期の段階では経費は掛かる。ただ、多額の工事費をかけて、新校を建設するのであれば、将来的に1校への統合再編を見据えた町の中心部付近に建設するのがよいと考えている。平成30年度の決算額だが、小学校の管理費と振興費、これは小学校だけで使う予算であり、教職員の人件費または教育委員会費や施設整備を除く決算になるが、8校計でほしい1億3千万円程度掛かっている。これをDパターンの2校で計算した場合、今の予算の作り方で試算すると2校の計が7千万円程度になる。この差額の6千万円の一部を現在実施できていない、子どもたちへの教育費などに充てることができるのではないかと考えている。最後に、ノーマライゼーションの件。これはDパターンに限ることではない。ノーマライゼーションの理念としては、障害のある人が障害のない人と同様に生活し、共にいきいきと活動できる社会を目指すこととしている。教育現場でもノーマライゼーションの理念は浸透してきており、そのシステムとしてインクルーシブ教育がある。障害のある者もない者も同じ場で共に学ぶことを追求し、各々の教育的ニーズに応える指導を提供できる柔軟な仕組みを整備することが重要となってくる。通級指導教室や特別支援学級の開設や施設のバリアフリー化も求められる。白石町教育委員会でもインクルーシブ教育に取り組んでいるが、施設面で言うとまだまだ整備できていない状況である。今回の再編で新校を建設し、エレベーターの設置、また多目的トイレの設置等を行うわけだが、完全バリアフリー化を図り、施設の面でもノーマライゼーションを具現化したいという考えもある。以上のことで、教育委員会としては、Dパターンの妥当性が高いのではないかと考えている。もちろん皆さまの審議次第であるので、引き続き審議をお願いしたいと思っている。

議長：ありがとうございました。只今の説明に対して質問があればお願いします。

委員 B：個人的にはやっぱり適正規模は大事だと思っている。そういうことから考えると、2校が好ましいと思う。ただ、問題は子どもたちのための適正規模を述べるのはわかるが、ということになると初めから適正規模ぎりぎりの小学校を作っているのか、というのは疑問に思う。町の方は、初めから12学級あるということを前提にしながらも、将来は人口が減るから1校への統合を見据えるというのは論理が矛盾していると思っている。ということからすれば、学区を見直すことは必須ではないのかなと思う。あくまで子どもたちの為に私たちは見直しをするのである。そういうことからすると、学区の見直しの考えは正しいと思う。もうひとつは、初めから1校ありきの議論をするのかということ。子どもたちのことを考えると2校、そこまででもいいのではないかという気もしている。審

議会の答申の中で、絶対1校を見据えてという言葉を入れなければいけないのか。初めからそちらの方に向かって進んで行くのがいいのか？という気はしている。ただ新しい小学校の位置を決める時に、どうしても連携を図るとかいうのが必要だったら、やむを得ない部分もあるが、そこは個人的にはえらく寂しいなという気はしている。

議 長：答申については、案をいろいろ議論して1校を入れるかというのを皆さんで審議して行きたいと思う。それ以外について、事務局でお答えいただけるか。

事 務 局：学区の見直しのお話をいただいているが、こちらの方では、今の小学校区というのは尊重をしていきたいということで、今の小学校区単位での統合再編を考えているところである。あと、有明の問題については、繰り返しになるが、人口がわからないというところで論理が破綻しているということもあるが、将来的なことではっきり見通せないということもあるというのはご了解をいただきたいと思っている。

議 長：A～E パターンの説明があったが、これについて何か質問があるか。

委 員 A：校区についての問題は難しいなと思っている。例えば、北明校区の一部が有明へ行くとなった時、伝えるのはすごく難しいと考える。そういう意味では、自由校区の枠を広げることも必要かなと思う。ただ、自由校区にすると、新しい校舎の学校に行きたいという子どもが増えることも予想される。そういう意味ではある程度子どもや保護者の意見は尊重しないといけない中、ある程度の児童数の見通し等、教育委員会の方で検討していかなければならないという気がする。

委 員 M：自由校区というのがあるが、それはそのまま存続をするのか。父兄の方の学校の選択の自由というのもあるわけなので、合併したら自由校区はなくなりますよということではないかと思う。

議 長：特に通学についての校区の話は、こういう意見が出たということも繋いでもらい、この答申の後、いわゆる開校準備委員会等の組織で、次のステップとして議論していただければと思う。

事 務 局：先ほど、校区について申し上げた。もっと新しい視点で、ということと思うが、現在の校区を割るということについて、皆さんどんな意見をお持ちなのかお尋ねしたい。あったらお願いします。

委 員 J：自由校区については反対。私も保護者なのだが、同じ地区にいながら、違う学校に通っていると、非常に連携の取りづらさを感じている。地区行事なども合わせづらいし、コミュニティを守るという面では、自由校区にはあまりしない方がいいのかなというふうに思っている。同じように学区割の方も今の学区割から変えるというのは、コミュニティを守る面でも変えない方がいいのではという意見を持っている。

委員 N:私は1校の意見である。どうしても統合再編というと、どんどん人数が少なくなっていくイメージがあり、寂しいという思いがしてしまう。今、学校の運営も見直されてきていると思う。発想の転換で、新しい学校を作るいい機会だというふうに思いなおし、せつかくこういう機会ができたから、この機会に新しい学校を1校作るという感じでやっていくと、今ある学校の運営とはまた違うやり方でもいいのかと思う。子どもが生き活きと通いやすいような学校を新たに作りますよ、となると統合再編の寂しいイメージ部分がなくなり、さらに白石町にはすてきな学校ができたよ、と広まれば、引っ越してきてくれる人も増えるのではないかなと密かに思ったりしている。学区を割るとかそういうのではなく、新たに1つの新しい学校を作ります、という意味で1校への統合再編というのはどうかとずっと考えているところ。

委員 F:私も1校案だが、学区を割った場合、地域感情とかを考えると、もめはしないか、簡単に行くのだろうかと思う。それなら初めから1校がいいのではないかと思った。適正規模の部分をもう少し説明してもらってもいいか。

事務局:適正規模を超えてしまうとどうなるかということをお伝えさせていただく。まず、特別教室が使えなくなる。例えば1学年に4学級、5学級あると理科室が使えなくなる。なぜ使えなくなるかというと、決められた時間で特別教室を使うので、どうしても使えない時間帯が出て来るからである。そうすると、今まで理科室で実験ができた5年生、6年生ができなくなる場合が出てくる。また、体育館もとてつもなく大きく作れるわけではないので、体育館でする体育の授業がだんだんできなくなる。雨が降った時などは、特にそうである。プールも同様で、学級が多すぎると入れなくなる。教職員の児童の把握も、ある程度の数だったらできるが、児童数が多すぎると一人一人の把握がだんだん難しくなる。900人もいると、校長先生も児童の把握が難しくなり、声が掛けられなくなる。ある程度の数でないと、どういう子どもかという把握もできなくなる。あと、それぞれの活躍する場面が減ったり、やりたいことができなくなってくる。また、縦割り班が組めなくなる。何をするにも時間が掛かる。例えば、体育館や運動場に児童を集めるだけでも、ものすごく時間が掛かる。1年生から6年生まで900人の児童を動かそうと思ったら10分から20分は軽く掛かる。というふうな、大規模すぎるといろんなデメリットが出てくる。私は、1,400人規模の小学校に在学していたことがあるが、運動会の時に、コース上に3組から4組入っている状態だった。一遍にスタートしないといけないので、一人一人の活躍の場や機会が減っていくのが事実。なぜ適正規模があるかということ、教職員にとっても児童にとってもちょうどいい、というところでの適正規模なのだと考える。

議長:ありがとうございました。時間もだいぶ経った。今日、事務局からいろいろ説明があったし、それぞれ意見交換もしていただいた。次回も今日の審議を

頭に入れながら、また議論を深めていきたいと思う。

進 行:松尾会長、進行ありがとうございました。

委 員 C:次回の審議会開催時に、校区割についての意見を持ち寄っていただいた方が議論が深まるのではないかと思う。

5 連絡事項

(1)第9回審議会の開催日について

第9回審議会 12月17日(火) 19時～ 役場3階大会議室

(2)その他

6 閉会